

教育振興基金について

小樽商科大学は明治44年、わが国5番目の高等商業学校として開学し、以来「実学、語学及び品格」の育成をモットーに掲げ、「北に一星あり、小なれどその輝光強し。」と謳われ、小規模ながら北の名門大学としての伝統を築いてまいりました。平成23年には創立百周年を迎えました。

しかし、国の財政状況の悪化にともない国立大学に対して国から交付される運営費交付金は毎年のように減額され、また少子化にともなう国公私との大学間競争はさらに激化するなど極めて厳しい状況におかれています。地方・小規模・文系単科大学である本学は決して優位な立場にあるとはいえません。

かつての本学は、小樽高商創立の経緯、戦後の大学への単独昇格、近年の札幌サテライトの設置、専門職大学院ビジネススクールの設置などの歴史を振り返りますと、卒業生や市民そして経済界等の各方面からの御支援を得て逆境を乗り越え飛躍のバネとしてきました。

この伝統を継承し、創立百周年を機に、本学に皆様のご寄付から成る教育振興基金を設けました。この基金の目的は、困難な大学財政の中にあっても、学生諸君の自由闊達な活動を積極的に支援する財政基盤を確保することです。例えば、全国大会出場を果たしたクラブの遠征費を補助することなどを行っています。

いまわが国は東日本大震災、それにともなう福島原子力発電所事故と国難ともいえる状況に直面しています。わが国の復興を担うのは、いうまでもなく今大学で学ぶ学生諸君です。学生諸君の正課、課外を含めた「学び」こそが、わが国の復興そして世界にも類を見ない高齢化社会を支える基盤にほかなりません。

また、この基金に支えられた学生諸君の自由闊達な活動、そこから得られる学び、そして学びを活かした社会での活躍が、本学が小樽の地で小規模ながら世界の中の名門大学として認知される基礎でもあります。

是非、本基金の趣旨を御理解頂き、御支援と御高配を賜るよう切にお願い致します。